

## アユ資源の状況について

### 産卵調査

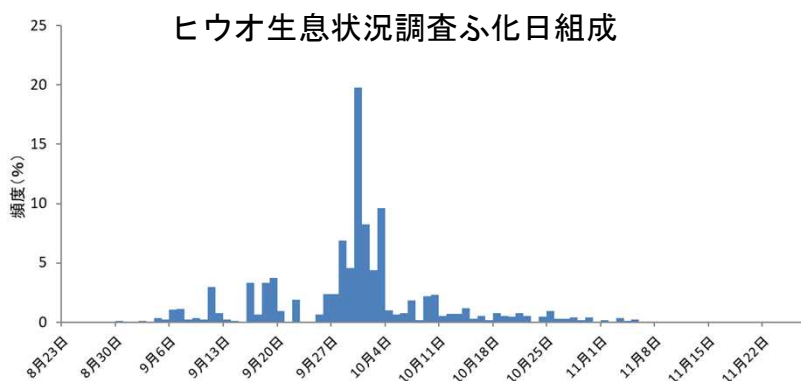
(億粒)						計	平年比
8月下旬	9月中旬	9月下旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬		
3.8	18.0	36.5	0.5	0.1	0.0	58.9	75%

総産卵数は58.9億粒(平年比75%)となった。親魚は多かったものの、姉川の濁水の影響で産卵量が平年を下回ったと考えられる。

### ヒウオ生息状況調査

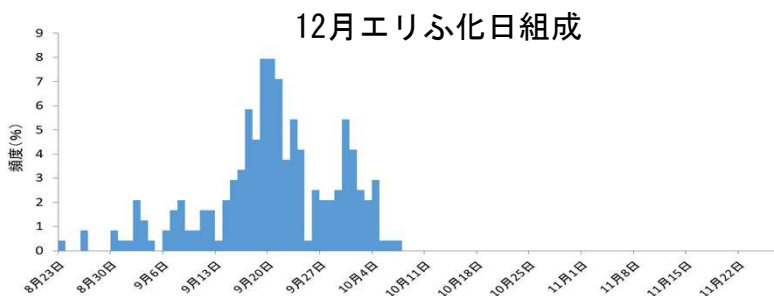
(尾/曳網)		
10月下旬	11月下旬	12月下旬
209	19	13

2次調査以降は採捕尾数が減少。ふ化日組成は9月末から10月上旬の遅生まれが主体。



### 12月エリ漁獲

12月エリで漁獲されたアユは9月上旬～9月下旬の早生まれが主体。



### 魚群探知機調査

30m周回魚探調査	(群)		
	1月	2月	3月
2023小群換算値	142	45	4
平年値	180	157	146
平年比(%)	79	27	3

2月から魚群数が少なく、3月の魚群数は過去にない少ない値となっている。

トランセクト魚探調査	(億尾)		
	1月	2月	3月
2023資源尾数	1.89	1.18	0.54
平年値	2.46	1.83	1.81
平年比(%)	77	64	30

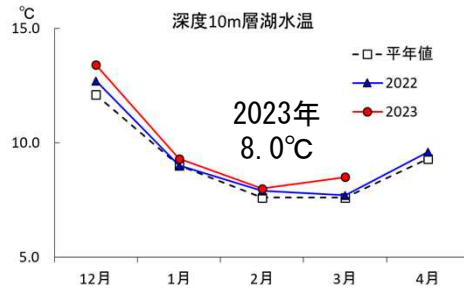
科学計量魚探による資源尾数の推定では周回魚探調査ほどの減少ではないものの少ない値となっている。

### 灯火採集調査

水試港湾での灯火採集調査(3/7)ではエリで漁獲される体型より小さなアユ(40mm未満)が多数確認されている。

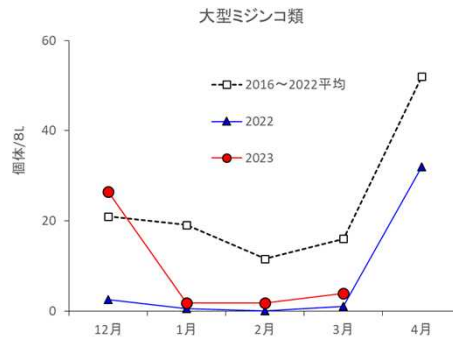
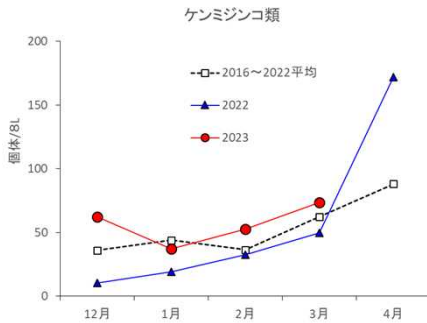


## 湖水温



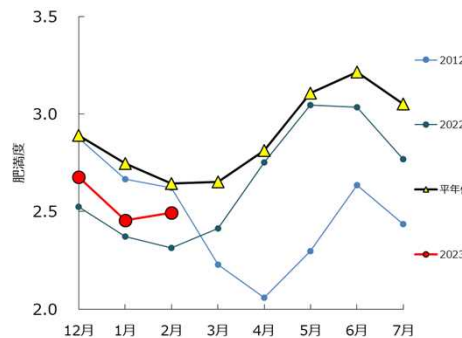
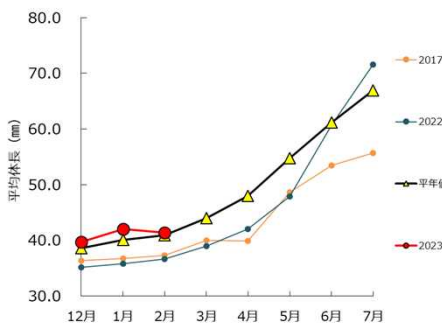
1月末に記録的な寒波による低温があったものの、湖水温は平年を若干上回る状況となっている。減耗したとされる平成18年の2月湖水温は6.6°Cであった。

## 餌料プランクトン



餌料プランクトンのケンミジンコでは平年を上回り、大型ミジンコ類（ダフニア）では昨年より多いものの平年を下回っている。

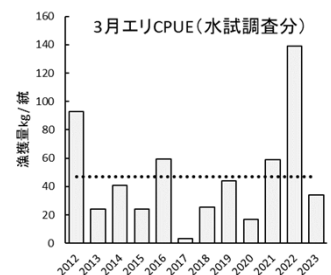
## エリ漁獲アユの体型



エリ漁獲アユの体長は平年を若干上回っているが、肥満度は平年より低い。

## 漁況

- 漁協への聞き取りではエリは北部では獲れていない（数日で10kg以下）。南部では3月20日頃までは例年並みであったが、それ以降は獲れなくなった。
- 北部も南部も12月からアユが大きくなっていないと感じている。
- 全湖的に刺網ではほとんど獲れないため、出漁していない。
- ヤナは少し上り始めているが漁獲に至る量ではない。



- 過去の減耗や成長不良等は、冬季の豪雪による水温低下、餓死寸前までの肥満度低下、産卵が多すぎることによる極端な密度効果が要因となっている。
- アユをとりまく環境等からアユに異常があったとは考えにくい。
- 魚探調査の魚群数減少は、早生まれの比較的成長の良いものから漁獲され、冬季には成長しない遅生まれが残り、それらが魚群を形成していないためと考えられる。
- 今後、遅生まれが成長し魚群を形成して漁獲されるサイズとなると考えているが、アユの成長や餌料プランクトンなど注意深く調査を進めていく。

## アユ資源の状況について

### 産卵調査

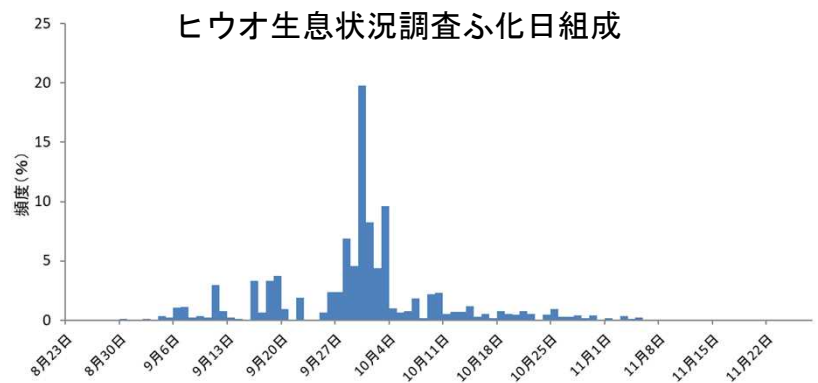
(億粒)						計	平年比
8月下旬	9月中旬	9月下旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬		
3.8	18.0	36.5	0.5	0.1	0.0	58.9	75%

総産卵数は58.9億粒(平年比75%)となった。親魚は多かったものの、姉川の濁水の影響で産卵量が平年を下回ったと考えられる。

### ヒウオ生息状況調査

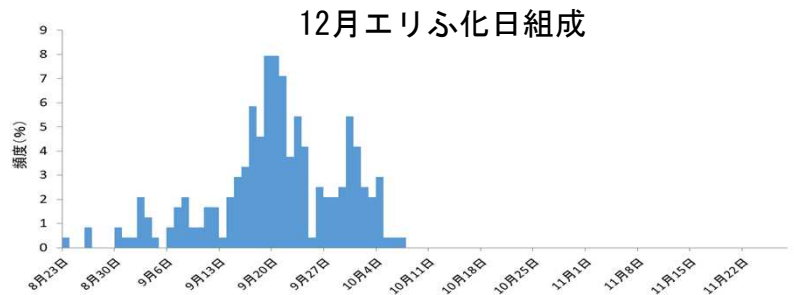
(尾/曳網)		
10月下旬	11月下旬	12月下旬
209	19	13

2次調査以降は採捕尾数が減少。ふ化日組成は9月末から10月上旬の遅生まれが主体。



### 12月エリ漁獲

12月エリで漁獲されたアユは9月上旬～9月下旬の早生まれが主体。



### 魚群探知機調査

30m周回魚探調査	(群)		
	1月	2月	3月
2023小群換算値	142	45	4
平年値	180	157	146
平年比(%)	79	27	3

2月から魚群数が少なく、3月の魚群数は過去にない少ない値となっている。

トランセクト魚探調査	(億尾)		
	1月	2月	3月
2023資源尾数	1.89	1.18	0.54
平年値	2.46	1.83	1.81
平年比(%)	77	64	30

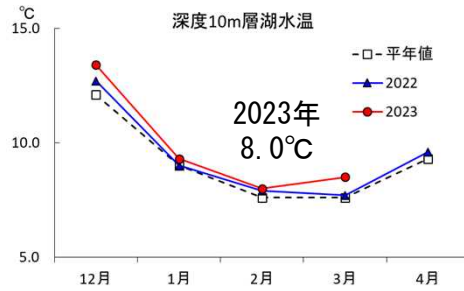
科学計量魚探による資源尾数の推定では周回魚探調査ほどの減少ではないものの少ない値となっている。

### 灯火採集調査

水試港湾での灯火採集調査(3/7)ではエリで漁獲される体型より小さなアユ(40mm未満)が多数確認されている。

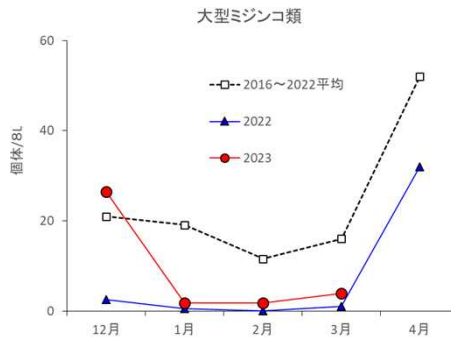
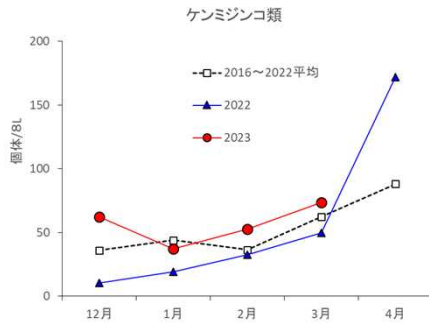


## 湖水温



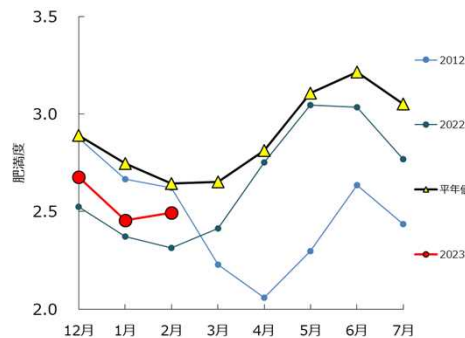
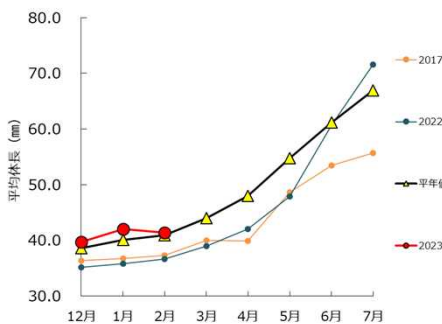
1月末に記録的な寒波による低温があったものの、湖水温は平年を若干上回る状況となっている。減耗したとされる平成18年の2月湖水温は6.6°Cであった。

## 餌料プランクトン



餌料プランクトンのケンミジンコでは平年を上回り、大型ミジンコ類（ダフニア）では昨年より多いものの平年を下回っている。

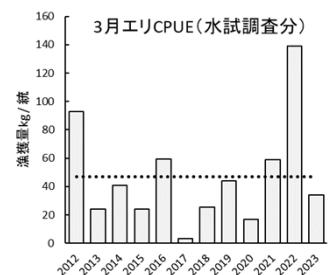
## エリ漁獲アユの体型



エリ漁獲アユの体長は平年を若干上回っているが、肥満度は平年より低い。

## 漁況

- 漁協への聞き取りではエリは北部では獲れていない（数日で10kg以下）。南部では3月20日頃までは例年並みであったが、それ以降は獲れなくなった。
- 北部も南部も12月からアユが大きくなっていないと感じている。
- 全湖的に刺網ではほとんど獲れないため、出漁していない。
- ヤナは少し上り始めているが漁獲に至る量ではない。



- 過去の減耗や成長不良等は、冬季の豪雪による水温低下、餓死寸前までの肥満度低下、産卵が多すぎることによる極端な密度効果が要因となっている。
- アユをとりまく環境等からアユに異常があったとは考えにくい。
- 魚探調査の魚群数減少は、早生まれの比較的成長の良いものから漁獲され、冬季には成長しない遅生まれが残り、それらが魚群を形成していないためと考えられる。
- 今後、遅生まれが成長し魚群を形成して漁獲されるサイズとなると考えているが、アユの成長や餌料プランクトンなど注意深く調査を進めていく。